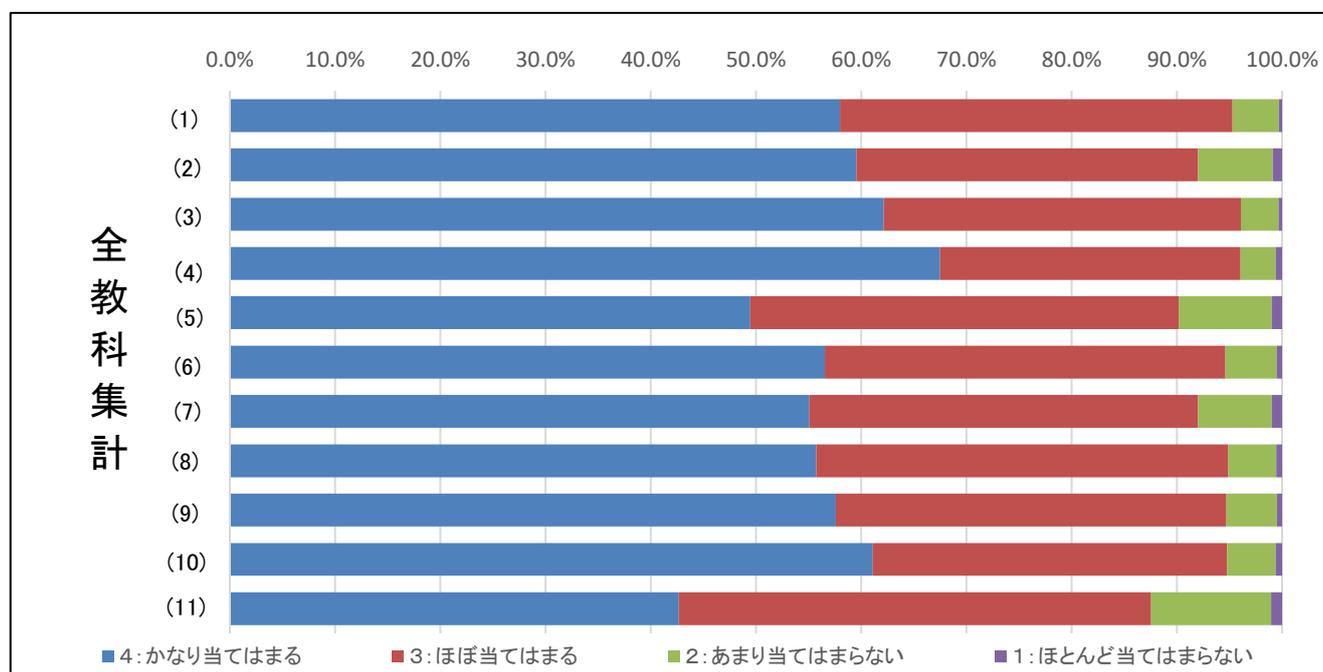
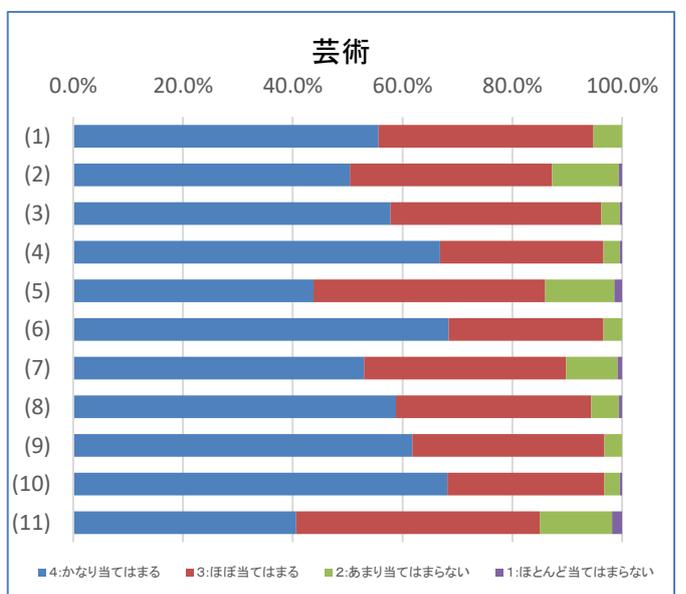
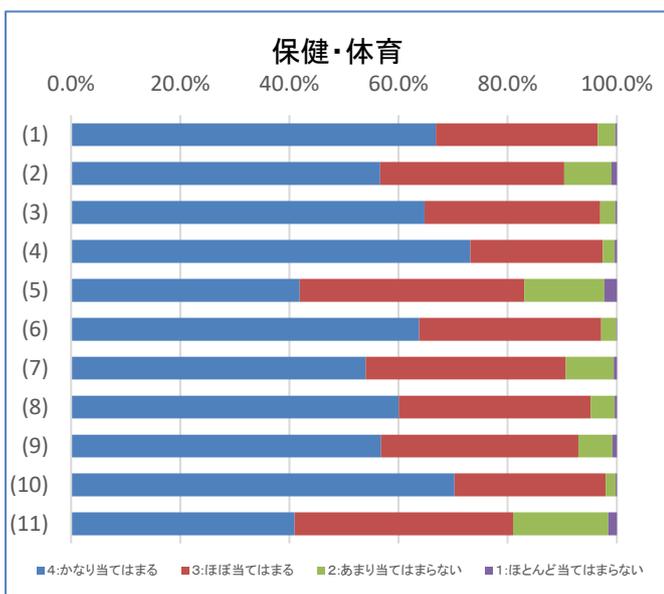
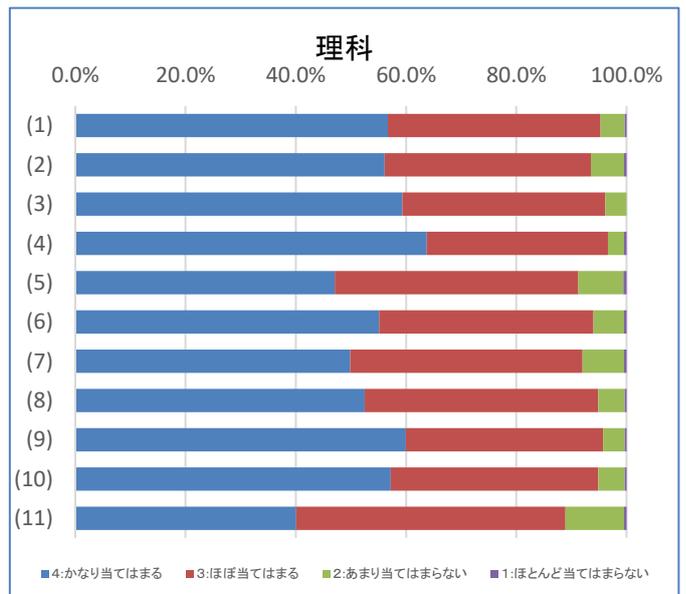
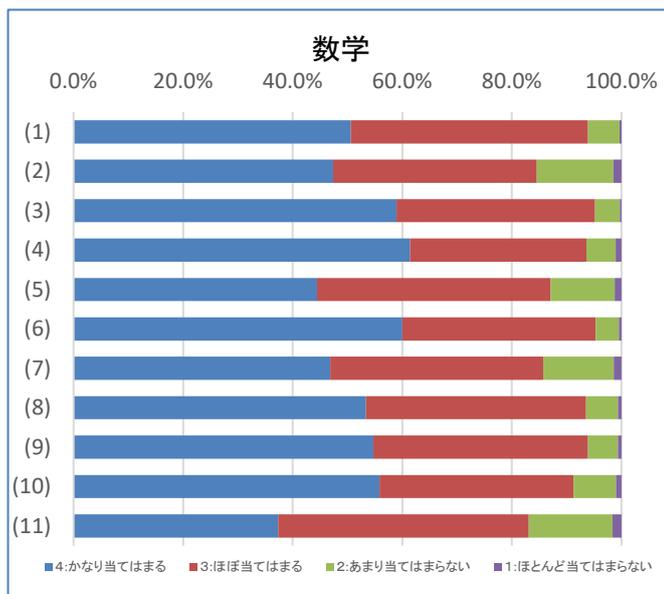
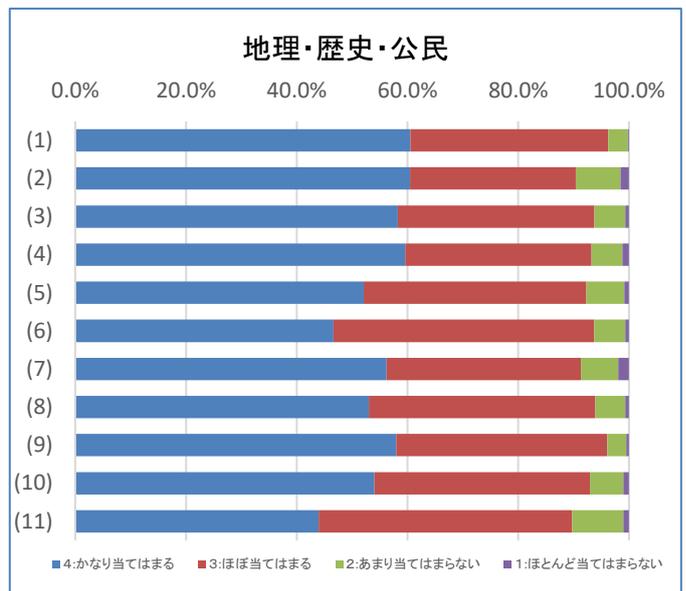
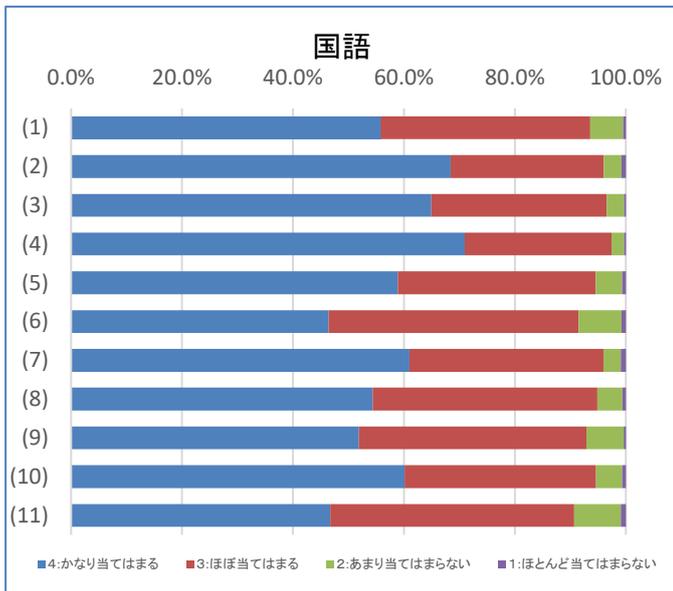


令和5年度 第2回「生徒による授業評価」集計結果一覧 (令和5年11月9日～11月22日実施)

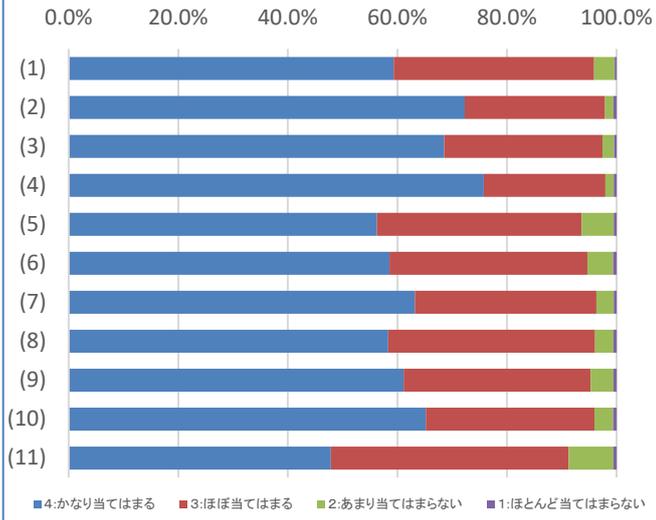
大項目	小項目	
授業の在り方について	(1)	毎時間の授業や単元(内容のまとめ)のはじめに学習のねらいを示したり、毎時間の授業や単元の学習のあとに学習したことを振り返ったりする機会がある。
	(2)	単元(内容のまとめ)の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある。
	(3)	単元(内容のまとめ)の学習の中で、課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面がある。
	(4)	主体的・協働的に課題を解決する場面がある。
	(5)	批判的・論理的に思考し、表現する学習活動がある。
学習の状況について	(6)	授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感することができた。
	(7)	他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えをができた。
	(8)	授業で得た知識をもとに、自分の考えをまとめたり、課題の解決方法を考えたりすることができた。
	(9)	授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連付けて理解することができた。
	(10)	主体的・協働的に課題を解決に取り組むことができた。
	(11)	批判的・論理的に思考し、表現することができた。

評価について 各授業内にて記名式で行い、「4:かなり当てはまる、3:ほぼ当てはまる、2:あまり当てはまらない、1:ほとんど当てはまらない」の4段階で評価する。

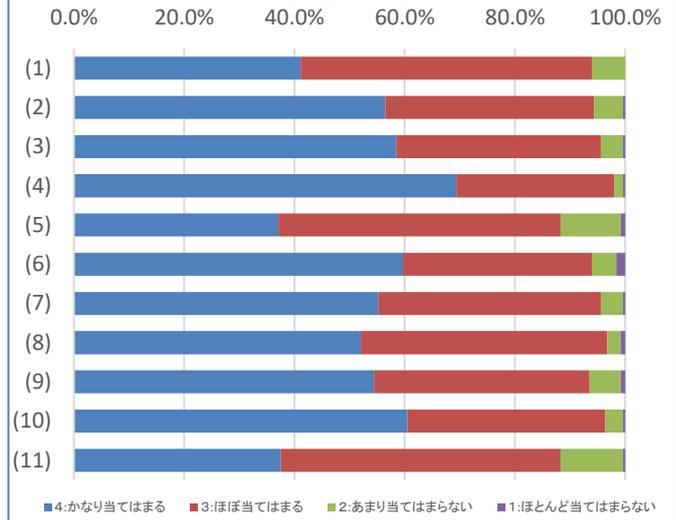




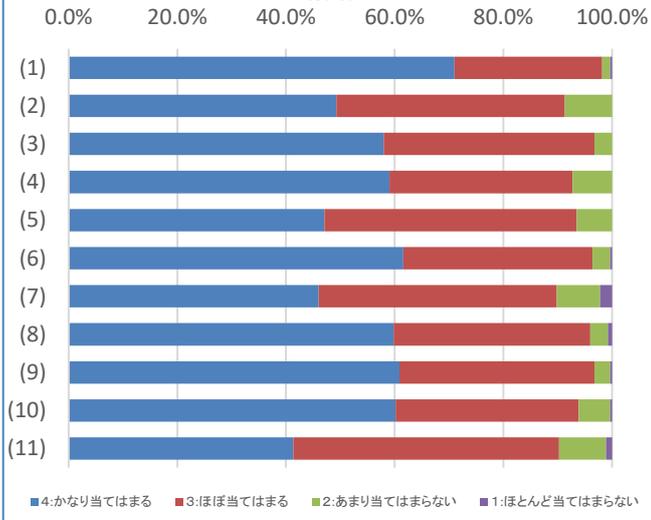
外国語・国際



家庭・看護



情報



令和5年度 第2回「生徒による授業評価」教科検討事項

教科		授業評価分析結果・課題点	授業改善に向けての具体的な取組み
国語		<ul style="list-style-type: none"> 授業展開について、生徒は単元目標を意識して授業に臨むことができている。 授業の中で身につけたことや、できるようになったことを実感することや、授業で学んだこととそれまでに学んだことを関連付けて理解することに課題が見られる。 古典の授業において、「論理的に思考する」ことに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元目標については今後も引き続き提示し、振り返りの際に生徒に意識させていく。 国語の授業において生徒が自分の成長や学びを自覚することのできる授業展開を意識していく。 授業公開を常に行い、どの科目においても「論理的に思考すること」が意識できる授業展開となるよう、意見交換等を行う。
地理歴史公民		<ul style="list-style-type: none"> 世界史探究では、主体的・協動的・批判的・論理的な学習活動に対する評価が低かった。時間数が少なく、教科書の内容に終始してしまうことが多いので、発展的な発問等も少し入れていく必要がある。 卒業年次が受験対策に履修する科目は協動的な学びや他者の考えを知る機会の設定が難しく、授業評価の結果も該当項目の「4」の割合が他の科目に比べて少なかった。 地理総合の課題は、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深めたり、新たな考えを得る機会が少なかった。 歴史総合の課題は、授業内で身につけたことを活かしながら論理的・批判的に考える場面が少なかった。 公共では、4の評価が高い項目がほとんどだったが、6番目の項目のみ3の数が一番多かったため、生徒に達成感を感じさせたり、習得した知識を活用できる機会を設けることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業年次が受験対策に履修する科目は受験問題を解いて解答を添削しあう時間などを設けることで協働性や他者との関わりの機会を持つ。 地理総合では、授業内で意見共有を行える発問の提示などの工夫が必要。 歴史総合では、授業内で習った重要語句を使用しながらまとめ作業を行わせ、どのような視点で物事を考えているのかの振り返りをさせることが必要。 公共では、新聞の切り抜きやその時のニュースなどを授業に取り入れて思考活動を行う工夫をしたい。
数学		<ul style="list-style-type: none"> 第1回の分析結果として「他の回答と比較して、(5)批判的・論理的に思考し、表現する学習活動がある。(11)批判的・論理的に思考し、表現することができた。」の2項目に関する評価が低い。」ということから、授業改善に向けての具体的な取組みを行ったところ、第2回では第1回と比べて上記項目の評価が上がっている。更に評価を上げられるように、引き続き前回から行っている取組みを継続していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 時間を取り、自ら別の解法を考えさせる。 共通テストでも出題されている会話形式のものを取り入れていくことにより、批判的・論理的な思考力を育てていく。 生徒自ら問題を作って、他の生徒に解かせてみる。自分で問題を作ることで、問題を解くだけのときよりも、その概念に対してより深い理解が得られる。
理科		<ul style="list-style-type: none"> 生徒から、理系科目には「批判的思考力」「他者の考えを知る」という質問項目がなまじいと指摘があった。 理科全体を通して、批判的思考力に関する項目の評価が低かった。理科は批判的思考力(クリティカルシンキング)の養成に有利な科目である。どうして生徒がそのような回答に至るのかについて、重く受け止めることにした。 生徒の中で、教科書に書いてある内容や先生の教えたことを疑うことを「批判的思考力」、生徒同士で意見交換をすることを「他者の考えを知る」と捉えている傾向があった。自然科学の原理原則の枠組みの中で物事を考えることは、生徒にとって「批判的思考」ではなく、歴代の研究者が提唱した様々な考えを「他者の考えを知る」うちに受け入れていなかった。そもそも問いの設定が、文系科目向けなのではと思う。修正をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員と生徒の受け止め方のズレの問題でもあるので、スライドやプリントの文章に「批判的思考力」や「他者の考えを知る」と明記したり、この問題は批判的思考力を発揮して解く問題です。のように口頭で伝えるようにした。今後も、認識のずれが生じないように、狙いについて適切に伝えていきたい。
保健体育		<ul style="list-style-type: none"> 「主体的・協動的に課題を解決する場面がある。」という項目の評価が高かった。 「単元(内容のまとまり)の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある。」という項目が低い傾向にある。 批判的・論理的に思考し、表現する学習活動が不足している。 教科書の内容と日常生活を関連させることで生徒の興味関心をより高めることができ、思考する機会も多いと思われる。 「批判的・論理的に思考し、表現するための活動」について教科で工夫していけると尚よい。 満足度は概ね高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続してペアワークやグループワークなどを取り入れ、互いに課題を発見したり、アドバイス等を行ったり課題を解決する機会を作っていく。 主体的・協動的に課題を解決する場面の設定は行っているが、技能が定着していないと他者の考えから自らの考えを広げ深めるというところまで繋がらない。ペアワークやグループワークを行う際、自らの技能レベルとは切り離して考えさせる等工夫していく必要がある。 ペアワークやグループワークの中で、批判的・論理的に思考する点は、行っているが、体育において「批判的・論理的」という言葉が適していないように感じる。試合だけでなく、発表をするなどして思考したことを表現する機会を設けていく。 今後も教科書の内容と日常生活を関連させることで、批判的・論理的に思考したり、思考したことをプリントにまとめたり、発表したりする機会を設ける。 より批判的・論理的に思考し、表現するために、「教える授業」ではなく、グラフから読み取ったり、自らの生活と繋げて考えさせたりする機会を増やす。 スポーツにかかわる課題を心理的側面から明らかにしてスポーツを実践できるように、科学的知識を育成していく。教科会で授業の内容等について話し合い、意見交換を行う。
芸術	音楽	<ul style="list-style-type: none"> 満足度は概ね高い。 題材ごとの目標に対する意識がやや低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き生徒が主体的に授業に取り組める工夫を実践する。 授業の最初に題材の目標についての説明をより明確に行う。
	美術工芸書道	<ul style="list-style-type: none"> 批判的・論理的な思考表現について、アプローチの仕方を検討する必要がある。 全体的な満足度は概ね高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 制作途中や鑑賞活動の場面で、言語活動を積極的に取り入れる。 生徒の創作意欲が高まるような授業づくりに取り組む。
外国語国際		<ul style="list-style-type: none"> 満足度は概ね高いが、(11)の項目の評価はやや低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業を受ける前と後で生徒がどう変わったか、教員が理解する。
家庭看護		<ul style="list-style-type: none"> 前年同期に教科の特質上、(6)「授業の中で身につけたことや、できるようになったことを実感することができた」、(10)の主体的・協動的に課題解決に取り組むことができた」については、後期は調理実習の活動が大きく影響した。 一番改善が必要な項目は、前期に引き続き(11)の「批判的・論理的に思考し、表現する学習活動がある」についてであった。 特に実習科目において、(1)のねらいや振り返り、(2)(3)の自分や他者の考えや解決方法を考えるなどの満足度は低めだが、前期に比べ成長する姿が見えた。 (8)の「授業で得た知識をもとに、まとめたり解決方法を考えたりする」の項目でも、改善点を明確にし、年度のまとめとして取り組みたい。 	<ul style="list-style-type: none"> グループワークに加え、ペアワークをしてから発表をさせるなど、発表の選択肢を増やした。 班ごとの発表をただただだけでなく、事後の振り返りも各班ごとで行い、次の取組みに生かせる指導をした。 実習の多い科目では、半期ごとや区切り、自分や友達の進行状況を確認し合い、自分のペース配分や改善点を見直す機会を設けることで、実習時間を増やせた。 夏休み・冬休みを利用して、生活に関わる課題を出し、スライドにまとめて発表させた。日常生活に着目し、問題を探し、解決することにより家族の一員としての役割を果たすことができ、発表により周りに生徒たちの理解・関心も深めることができた。
情報		<ul style="list-style-type: none"> 概ね満足度が高くすべての項目で90%の生徒が3、4を選択している。 4を選択している生徒が各項目でほぼ50%以上であり、70%を超えている項目もある。 1、2を選択している生徒が10%ほどいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も生徒にとってわかりやすい授業になるように研究していく。 3を選んでいる生徒に4を選んでもらえるように、目的を明確にし、主体的・論理的・協動的な活動を増やしていく。 ICT機器を利用した授業の進め方を研究し、グループワーク・ペアワークをより多く行えるようにしていく。
舞台芸術		<ul style="list-style-type: none"> 満足度は概ね高い。 単元のまとまりを意識しにくい生徒がいる。 伝統芸能は「型を学ぶ」ことが重視されるため、評価項目では測れない面がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 非常勤講師の授業も含めて常に授業公開し、意見交換を行う。 教科書・副教材がないことによる。単元の指導と評価の計画を活用し、単元ごとのねらいや振り返りの共有を充実させる。 一つの科目だけでなく、舞台芸術科目の学びを全体的に捉え、伝統芸能を学ぶことの意義や、カリキュラムマネジメントにおける位置づけを意識させる。